

おわりに

今回の研究は、熊本地震後の熊本城訪問をきっかけに始めた「地域づくりや建築の原点に戻る旅」と「熊本の復興の過程を巡る旅」を中心に、大学時代からの「小さなまち旅」を振り返ったものである。言い換えれば、ここ5年間の旅を中心とした約半世紀の旅の振り返りである。

大学時代からの「現代建築を巡る旅」、会社員時代からの「歴史的建造物と町並みを巡る旅」、公務員時代からの「景観づくりと地域づくりを巡る旅」、そして現在進行中の「地域づくりや建築の原点に戻る旅」「熊本の復興の過程を巡る旅」「身近なまち旅」に至るまで、筆者の「小さなまち旅」も進化と深化を重ねてきた。この間、一貫して地域個性を追い求めてきたのではないだろうか。サブタイトルが示すように筆者の小さなまち旅は「画一化する街並みの中で地域個性を巡る旅」である。

筆者の旅先は、人々によく知られた観光名所もあるが、仕事先でふと出会った場所もたくさんある。有明海に広がる海苔養殖や牡蛎養殖の風景、石積みの塀や赤煉瓦塀が続く街並み、住宅地で見つけた美しい枝垂れ梅やミモザの花々、新緑や紅葉の並木、ローカル線沿線の桜並木、残した（残った）一本桜、レトロな商店街や路地、農山村の素朴な風景、多彩な河川流域景観等、数え上げたらきりが無い。いずれも地域の人々にとっては、愛着と誇りのある風景であろう。こうした地域個性は至る所に存在するのであり、今後もこうしたものを「地域の宝」として大切にしていきたい。

また、筆者が小さなまち旅を進めている中で、2019年12月以降、世界各地で新型コロナウイルス感染症が拡大し、国内外で多くの方が亡くなられ、多くの感染症陽性者が確認されている。国内でも2020年4月に緊急事態宣言が発令され、経済にも甚大な影響を与えた。特に観光や飲食分野への影響は計り知れないものがある。

筆者は2018年4月から現在の職場で九州各地を飛び回っているが、新幹線や特急列車、高速バスの利用者数は激減し、その影響を目の当たりにしてきた。コロナ発生前に見た長崎港や佐世保港のクルーズ船とそのクルーズ船の利用者を乗せるために港に待機している数多くのバス、観光地の至る所で見かけた多くの外国人旅行者の姿も、2020年4月7日の第一次緊急事態宣言を機にすっかり見なくなってしまった。



新型コロナウイルス発生前の2019年10月：佐世保港に入港した大型クルーズ船(左)、港に待機しているバスに向かう多くの外国人旅行者(右)

人口減少が進み、国内の観光需要が縮小する日本は、外国人観光客に経済活性化を期待し、コロナ発生前までは外国人観光客は増え続けてきた。その結果、京都をはじめ多くの観光地でオーバーツーリズムが問題となり、まちなかは外国人観光客で溢れかえり、市民はごみのポイ捨て、落書き等の深刻な観光公害に悩まされていた。しかし、新型コロナでその様相は一変した。

筆者は九州内の主要な観光地を訪問する機会も多く、外国人観光客に過度に依存する傾向を以前から危惧していた。外国人をターゲットにした宿泊や料理、買物のスタイルは、地元の人々のニーズや嗜好に合った内容や料金設定だったのだろうか。オールジャパンやオール九州ではなく、それぞれの地域特性を考慮したものであったのだろうか。筆者は地元をはじめ国内の人々に喜んでもらえる内容や料金設定でなければ、外国人観光客にも喜んでももらえないと考えている。

筆者はその一方で、外国人観光客の動向に左右されずに地道に頑張っている方々も多く見てきた。筆者は観光のベースにあるのは、グリーンツーリズムに象徴されるような「身の丈に合ったおもてなしのまちづくり」であると考えている。それは、「まず、住民（受け入れ側）が楽しむ。そして、自分たちの暮らしぶりを乱さない程度に来訪者をあたたかく迎え入れる」ということである。「大挙して観光客が訪れる旅のスタイル」ではなく、本物志向で地域の良さを伝える「地に足の着いた旅のスタイル」こそが、地域づくりにしてもツーリズムにしても長期的に持続する秘訣ではないだろうか。

また、コロナ禍の中で「マイクロツーリズム」という旅のスタイルがクローズアップされているが、筆者の小さなまち旅はまさしくこのスタイルである。自宅から1～2時間以内の近場にも様々な魅力スポットがあり、身近な旅を気軽に楽しむことで、それぞれの地域の良さの掘り起こしや地元経済の活性化にもつながる。そして、それぞれの地域のファンとなるリピーターを増やしていくことが何より大切である。それがひいては全国各地からの来訪者の増加につながっていくのではないだろうか。

こういう時期だからこそ、旅も本物志向、こだわりのスタイルが求められていると思う。新型コロナの災禍を前向きに捉え、旅の原点に立ち返って旅のスタイルを考えていく絶好の機会ではないだろうか。

この考え方は、筆者の専門である建築分野でも同じことが言える。建築は景観を構成する重要な要素であり、地域個性に与える影響は計り知れない。一部の地域を除き全国どこに行っても同じような個性のない街並みが形成されている中で、建築の基本に立ち返り、それぞれの地域の歴史や文脈等を活かした建築空間の創出が求められている。そのためには、設計に際してフィールドワークを重ね、その地域ならではの多彩な魅力資源を探求していく必要がある。

また、コロナ禍で学んだことは多く、今後、建築計画や設備計画も大きく変わっていくと筆者は考えている。その際に、日本建築の特徴である中間領域（縁側に代表されるような内部と外部が曖昧な空間）や、伝統的な町家建築が持つ生活の知恵（中庭を活用した彩光、通風、換気方法等）を活かした空間づくりを積極的に進めていってほしい。ポストコロナ時代でこそ空調システムや照明システムに過度に依存しない、自然と共生した建築空間が改めて求められているのではないだろうか。

さて、今回の研究の中で筆者が使ってきたキーワードがいくつかある。まずは「モノ・ヒト・コト」である。モノ（地域資源）があっても、ヒト（人、組織）が機能しなければ、コト（ストーリー）は成り立たない。せっかくの素材があっても有効に活用する者がいなければ、宝の持ち腐れとなり、ひいては宝の消失となってしまうのである。ポテンシャルを有していながらも、「モノ」が活かされずに埋もれている地域が多いと筆者は感じている。地域にある身近な宝を探求し、しっかり活用していくことで、『モノ×ヒト＝コト』を実現していただきたい。

次は「点・線・面」である。魅力ある点（地域資源）は各地に存在するが、それらが増えれば線（地域資源を結ぶ回遊路）になる可能性がある。さらに魅力ある点が増えれば、線も増え、面となっていくのである。こうしてできた面が個性ある地域であり、地域のアイデンティティとなり、地域の人々にとっては誇りや愛着となっていくのである。長野県小布施町の地域づくりの取り組みや北信濃地域の広域連携ツーリズムはその好事例であり、参考にしていきたい。

最後に「時間 空間 旅」である。冒頭の「はじめに（研究の目的）」で触れたが、時間をかけて目的の地域や場所に行く移動（空間移動）の過程でいろいろなことを想像し、思考を深めることができる。また、実物を見て空間を体験し地域の方々と対話することで、新たな考えが生まれ、地域づくりのヒントを得ることができるのである。

コロナ禍の中でVR（バーチャルリアリティ）を活用したバーチャルツーリズムやオンラインによる体験ツアーが注目されているが、こうしたツールにより得られた情報を参考にしながらも実際に五感で感じる旅をお薦めしたい。新型コロナで旅のスタイルも分岐点に差し掛かっていると思うが、情報化時代の地域づくりにおいてこそ「時間 空間 旅」の視点が求められているのではないだろうか。

また、Part.2で紹介した「地域個性を巡る小さなまち旅の事例集～身近な地域の魅力の再発見～」は、筆者の小さなまち旅を踏まえ、景観づくりや地域づくりの魅力を伝える62のテーマでまとめたものである。冒頭にも述べたが、全国的に個性の感じられない同じような街並みの形成が進む中で、今回の研究が身近にある地域資源を見直すきっかけとなり、景観づくりや地域づくりのヒントにさせていただくとともに、皆さま方の身近な旅の参考にしていいただければ幸いである。

人生100年時代と言われる今日、いろいろな地域を旅して、いろいろなことを見て、いろいろなことを学んで、いろいろなものを味わって、いろいろな人と交流して、そこで感じたことを持ち帰り、自分の暮らす地域に置き換えて考えていただきたい。筆者が身近な地域の取り組みとして提唱している「博多湾姪浜 夢海道（回廊）＆海遊（回遊）プロジェクト構想」も、小さなまち旅から生まれた構想である。旅は地域づくりのいろいろなヒントを提供してくれるのである。

筆者は熊本地震をきっかけとして、それまで精力的にまちづくり活動を実践してきた姪浜を離れ、本格的に小さなまち旅を始めた。小さなフィールドと組織の中に見えなかった多くのことを、小さなまち旅で体験し学んでいる。筆者にとって旅の終着点はない。今後も「毎日が発見ならぬ毎日がまち旅」「晴耕雨読ならぬ晴行雨紀 (Traveler in fine weather and Writer in rainy weather)」というスタイルで小さなまち旅を続け、いろいろな風景や文化、人と出会い、いろいろなことを吸収していきたい。筆者にとって旅は生涯学習の場でもある。

「人生100年時代 皆さま方もいろいろな旅を楽しみましょう」

最後になりますが、今回の研究に当たりましては、筆者が訪問した際にいろいろとご教示いただいた皆さまにこの場をお借りして感謝の意を表します。また、今回も筆者のとりとめのない研究を会員研究として認めていただき、ご支援いただきました(公財)福岡アジア都市研究所の皆さまに謝意を表します。

2021年3月

参考文献等

■参考文献、引用文献

【報告書全般にわたり参考・引用したもの】

○(公財)福岡アジア都市研究所（会員研究員として筆者作成）

- ・「身近な地域資源を活かしたまちづくり活動記録～姪浜での10年の実践活動を中心とした、建築と地域づくりへの想い～」(2016年度)
- ・「身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策に関する研究～姪浜でのまちづくり活動と地域づくりを巡る小さなまち旅を通して～」(2017年度)

【筆者が直接関わった福岡市役所での業務、唐津街道姪浜まちづくり協議会での活動等から参考・引用したもの】

○福岡市

- ・1995年度海外派遣研修報告書「欧州における都市デザインの潮流について」(福岡市都市景観室時代に筆者作成)
- ・「シーサイドももち都市景観形成地区 景観形成ガイドライン」(1996年6月発行)
- ・「御供所都市景観形成地区 景観形成ガイドライン」(1999年3月発行)

○(財)福岡都市科学研究所

- ・「URC」Vol.50(2001冬号)「こだわり、もてなしのまちづくり～小布施町と長野市の地域づくりを巡る旅～」(研究主査として筆者作成)
- ・「福岡大都市圏における広域連携のあり方に関する研究」(2003年3月)

○唐津街道姪浜まちづくり協議会（事務局長として筆者作成）

- ・「唐津街道姪浜 地域の魅力資源集（本編及び概要版）」(2008年3月)
- ・「姪浜まち旅プロジェクト計画」(2016年3月)

【参考文献、引用文献】

○東浩紀 著「弱いつながり 検索ワードを探す旅」(2016年4月発行)

○出口治明 著「還暦からの底力 歴史・人・旅に学ぶ生き方」(2020年5月発行)

○荻谷勇雅・西村幸夫 編著「歴史文化遺産 日本の町並み（上巻）」(2016年1月発行)

○荻谷勇雅・西村幸夫 編著「歴史文化遺産 日本の町並み（下巻）」(2016年3月発行)

○沢木耕太郎 著「旅のつばくろ」(2020年4月発行)

○成美堂出版「今がわかる時代がわかる 日本地図 2021年版」(2021年1月発行)

○隈研吾 著「ひとの住処」(2020年2月発行)

○隈研吾 著「14歳の世渡り術 建築家になりたい君へ」(2021年2月発行)

○エーディーエー・エディタ・トーキョー「建築への旅 建築からの旅」(2017年5月発行)

【事例紹介関係等】

○第5回九州町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料(2017年9月)

○三浦正幸 著「日本の宝 鞆の浦を歩く」(2010年5月発行)

○増田「蔵の会」発行「写真集 増田の蔵」(2012年10月発行)

○COMICO ART MUSEUM YUFUIN パンフレット

○ア・ラ・小布施 著「遊学する小布施 信州・小布施コンセプト&ガイド」(1997年4月発行)

○祝田秀全 著「近代建築で読み解く日本」(2020年5月発行)

○笠倉出版社「医者がすすめる温泉療行 大分県竹田市 長湯温泉」(2020年11月発行)

○その他、訪問先で入手した各種パンフレット、関連ホームページ等

■掲載写真

※特記なき限り「本報告書の写真はすべて筆者撮影」である。

(公財) 福岡アジア都市研究所 会員研究員 (2019～2020 年度)
大 塚 政 徳

【所属団体、活動】 まちなみネットワーク福岡 代表
地域づくりを巡る小さなまち旅

【連絡先】

〒819-0013

福岡県福岡市西区愛宕浜 2 - 3 - 2 - 6 0 1

TEL & FAX : 092-882-3831

携帯 : 090-7929-7758

e-mail : la-mound.m.63@iwk.bbq.jp

		年 齢	筆者の旅に影響を与えた主な出来事		筆者が実際に訪問し印象に残った主な建築物、町並み、都市等		
			筆者の動向	旅や建築に関する動向（旅●、建築▲）	現代建築	歴史的建造物・町並み・集落等	海外都市
子ども 時 代		0	1958.1 誕生	●国鉄キャンペーン「ディスカバー・ジャパン」 ●テレビ紀行番組「遠くへ行きたい」 ▲丹下健三(国立代々木競技場) ▲前川國男(東京海上ビル)※美観論争		■寺社(法隆寺、東大寺、富貴寺) ■城郭(会津若松城)	
		18					
熊本 大学 時 代		18	1976.4 熊本大学建築学科入学 ■建築との出会い ■建築巡り ■卒業論文(三角西港)&卒業設計(Architectural Complex)	●山口百恵「いい日旅立ち」(国鉄キャンペーン) ▲新聞記事「九州は現代建築の宝庫」 ▲住宅建築(清家清、篠原一男、吉村順三、宮脇壇、安藤忠雄) ▲熊本の歴史的建造物の保存運動(木島安史、長谷川亮) ▲弧風院(木島安史)	■磯崎新(群馬県立近代美術館、北九州市立中央図書館、福岡相互銀行本店、大分県立大分図書館) ■黒川紀章(福岡銀行本店) ■前川國男(熊本県立美術館、福岡市美術館) ■白井晟一(親和銀行本店) ■木島安史(上無田松尾神社) ■フランク・ロイド・ライト(旧帝国ホテル)	■城郭(熊本城) ■近代建築(熊本地方裁判所、弧風院) ■港・都市計画(三角西港) ■伝統的町並み(飫肥)	
		22	1980.3 熊本大学卒業				
鴻池組 時 代		22	1980.4 鴻池組入社 ■建築巡り ■歴史的建造物への興味 ■歴史的町並みへの興味 ■最初の海外への旅		■村野藤吾(小山敬三美術館、八ヶ岳美術館) ■内井昭蔵(桜台コートビレッジ、身延山久遠寺宝蔵、東京 YMCA 野辺山青少年センター) ■白井晟一(芹沢銈介美術館) ■山下和正(フロム・ファースト・ビル) ■槇文彦(代官山プロジェクト) ■磯崎新(群馬県立近代美術館)	■寺社等(桂離宮、修学院離宮、三十三間堂、清水寺、銀閣寺、龍安寺、円通寺、詩仙堂、平等院鳳凰堂、法隆寺、唐招提寺、東大寺、薬師寺、室生寺、日光東照宮、伊勢神宮、鎌倉円覚寺舍利殿、金沢尾山神社神門) ■近代建築(京都中京郵便局、東京駅、迎賓館赤坂離宮) ■伝統的町並み(栃木、川越、金沢、倉敷、今井町、飫肥)	■エジプト(カイロ) ■ギリシャ(アテネ、エーゲ海) ■イタリア(ミラノ、フィレンツェ、ベネチア、ローマ、ポンペイ)
		28	1986.2 鴻池組退社				
福岡市役所時代	姪浜まちづくり協議会活動前	28	1986.4 福岡市役所入庁 住宅供給公社配属 ■2回目の海外への旅 ■シーサイドももちクリスタージュ		■木島安史(球泉洞森林館) ■安藤忠雄(サントリーミュージアム天保山、熊本県立装飾古墳館、兵庫県立こどもの館) ■伊東豊雄(八代未来の森ミュージアム) ■坂倉準三(神奈川県立近代美術館) ■レム・コールハウス(香椎ネクサスワールド、アムステルダム集合住宅) ■アントニオ・ガウディ(サグラダ・ファミリア) ■イオ・ミン・ペイ(ルーブル・ピラミッド) ■ジャン・ヌーベル(アラブ世界研究所) ■ガエ・アウレンティ(オルセー美術館) ■ミス・ファン・デル・ローエ(バルセロナ・パビリオン) ■ヨーロッパの現代建築	■寺社等(桂離宮、修学院離宮、清水寺) ■城郭(五稜郭、松本城、犬山城、姫路城) ■教会(崎津教会、大江教会) ■近代建築(ヨーロッパの近代建築、旧開智学校) ■ニュータウン(幕張、多摩、六甲) ■アーバンデザイン(横浜、神戸、パリ、ベルリン、シュトゥットガルト、バルセロナ) ■国際建築展(ベルリン、シュトゥットガルト) ■地域づくり(小布施、京都西陣) ■伝統的町並み(小樽、函館、角館、栃木、川越、金沢、松本、飛騨高山、須坂、彦根、長浜、京都、奈良、富田林、神戸、出石、萩、熊本、飫肥、知覧) ■ヨーロッパの街並み・集落 ■棚田(うきは市つづら棚田、星野村広内棚田)	■ドイツ(ハイデルベルク、ローテンブルク、フランクフルト、ベルリン、シュトゥットガルト、ケルン、ハノーバー) ■オーストリア(ウィーン) ■イタリア(ローマ、ベネチア) ■スイス(インターラーケン、ユングフラウ) ■イギリス(ロンドン、エジンバラ、ストラットフォード・アポン・エイボン、コッツウォルズ) ■スペイン(バルセロナ) ■フランス(パリ) ■オランダ(アムステルダム、ユトレヒト) ■韓国(釜山、ソウル、金海)
		35	1993.4 都市景観室配属 ■景観形成地区の指定(シーサイドももち地区、御供所地区) ■海外派遣研修				
		42	2000.4 福岡都市科学研究所配属 ■研究「広域連携」 ■国内外都市調査				
	姪浜まちづくり協議会活動中		2006.4 都市景観室配属				
		49	2007.3 唐津街道姪浜まちづくり協議会設立 ●事務局長として約 10 年間、各ステージの地域課題に対応した多彩な活動を企画・実践し、多くの成果を上げる。姪浜及び協議会の名前を全国に発信してきた。	●2010.4NHK「小さな旅」全国放送番組に移行	■ル・コルビュジェ(国立西洋美術館) ■前川國男(東京文化会館) ■伊東豊雄(せんだいメディアパーク) ■隈研吾(浅草文化観光センター、アオーレ長岡、長崎県立美術館) ■槇文彦(代官山プロジェクト) ■アストリッド・クライン(代官山蔦屋書店) ■安藤忠雄(表参道ヒルズ、秋田県立美術館) ■山下和正(フロム・ファースト・ビル)	■寺社(会津さざえ堂、阿蘇神社) ■城郭(会津若松城、熊本城、首里城) ■教会(大浦天主堂) ■近代建築(東京駅、旧岩崎久彌邸、旧唐津銀行、旧高取邸、武雄温泉楼門、旧グラバー住宅、八千代座) ■産業遺産(軍艦島) ■地域づくり(村上、八女) ■伝統的町並み(角館、横手増田、会津若松、喜多方、大内宿、川越、長岡、村上、倉敷、高梁、木屋瀬、八女、吉井、塩田、鹿島、島原、雲仙、杵築、臼杵、山鹿、熊本、那覇)	
		55	2013.8 まちなみネットワーク福岡への参加				
		58	2016.5 唐津街道姪浜まちづくり協議会卒業	●2016.4 熊本地震			

		年 齢	筆者の旅に影響を与えた主な出来事		筆者が実際に訪問し印象に残った主な建築物、町並み、都市等		
			筆者自身	旅や建築に関する動向	現代建築	歴史的建造物・町並み・集落等	海外都市
福岡市役所時代	姪浜まちづくり協議会卒業後	58	2016.6 地域づくりを巡る小さなまち旅開始 ■地域づくりや建築の原点に戻る旅 ■熊本の復興の過程を巡る旅 ■身近なまち旅 2016.9 福岡アジア都市研究所 会員研究員 ■身近な地域資源を活かしたまちづくり活動記録(2016 年度) ■身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策に関する研究(2017 年度)		■ル・コルビュジェ(国立西洋美術館) ■坂茂(大分県立美術館) ■隈研吾(根津美術館、サントリー美術館、富岡市庁舎、長崎県立美術館、スターバックス中目黒店、COMICO ART MUSEUM YUFUIN) ■磯崎新(群馬県立美術館、北九州市立中央図書館・文学館、北九州市立美術館、大分市アートプラザ) ■黒川紀章(国立新美術館) ■妹島和世(すみだ北斎美術館) ■伊東豊雄(八代未来の森ミュージアム) ■前川國男(熊本県立美術館、福岡市美術館) ■藤森照信(ラムネ温泉館) ■乾久美子(延岡駅) ■代官山、表参道、銀座等の現代建築 ■各種建築展	■寺社(富貴寺、文殊仙寺、両子寺、萬松院、長崎4福寺(聖福寺、福濟寺、崇福寺、興福寺)、諏訪神社、上色見熊野座神社、八幡竈門神社、霧島神宮) ■城郭(五稜郭、松本城、熊本城) ■教会(トラピスチヌ修道院、今村天主堂、出津教会、大浦天主堂、崎津教会、大江教会) ■近代建築(福岡製紙場、旧開智学校、旧唐津銀行、旧高取邸、旧グラバー住宅、弧風院、大分銀行赤レンガ館、尚古集成館) ■産業遺産(軍艦島、仙巖園及び周辺) ■港・都市計画(小樽運河、松代泉水路、鞆の浦、柳川掘割、川尻、三角西港) ■庭園(水前寺成就園、仙巖園) ■集落(伊万里市大川内山集落、長崎市外海集落、波佐見町中尾山集落、天草市崎津集落) ■路地・坂道等(谷中、神楽坂、尾道、鞆の浦、長崎) ■ニュータウン(さいたま新都心) ■地域づくり(小布施、八女) ■伝統的町並み(函館、小樽、川越、松代、鞆の浦、木屋瀬、秋月、八女、鹿島、有田、長崎東山手・南山手、島原、美々津、知覧) ■ドイツの街並み・世界遺産 ■石橋(秋月眼鏡橋、長崎眼鏡橋、八代市東陽町種山、鹿児島石橋記念公園) ■風景(函館、洞爺湖、有珠山、定山渓、虹の松原、草千里、桜島、開聞岳) ■棚田(うきは市つづら棚田、東峰村竹棚田、豊後高田市田染荘) ■熊本地震からの復興(熊本城、阿蘇神社、阿蘇大橋、免の石、草千里、益城町、南阿蘇村、熊本市新町・古町、水前寺成就園)	
		60	2018.3 福岡市役所退職				
福岡市役所退職後		60	2018.4 建築確認検査機関に再就職				■ドイツ(リュウデスハイム、ライン川、ケルン、ハイデルベルク、ビュルツブルク、ローテンブルク、ホーエンシュパンガウ、シュタインガーデン、ガルミッシュパルテンキルヘン、ツークシュピッツェ、ミュンヘン、ロマンチック街道)
		61	2019.6 福岡アジア都市研究所 会員研究員 ■地域づくりを巡る小さなまち旅～時間 空間 旅～ ■博多湾姪浜 夢海道(回廊) & 海遊(回遊)プロジェクト構想(2019～2020 年度)	●2020.1 新型コロナウイルス感染症発生 ●2020.4 新型コロナウイルス感染症対策 第一回緊急事態宣言(福岡県 4/7～5/25) ●2020.7 Go To トラベル実施(7/22～12/27) ●2021.1 新型コロナウイルス感染症対策 第二回緊急事態宣言(福岡県 1/7～2/28)			
		63	現在に至る。				

主な訪問地			
月	2018年	2019年	2020年
1月	■鹿児島市（仙巖園、尚古集成館、スターバックス鹿児島仙巖園店） ■指宿市（指宿温泉、長崎鼻、開聞岳、池田湖、岩崎美術館） ■南九州市（知覧武家屋敷） ■尾道市（坂道と路地） ■福山市（鞆の浦） ■長崎市（軍艦島、唐人屋敷跡、新地中華街、長崎港） ■鹿島市（祐徳稲荷神社）	■行橋市（思い出の通学路とまちかど遺産） ■福岡市（福岡タワー、愛宕神社、愛宕浜、東長寺、櫛田神社、聖福寺） ■佐賀市（三瀬） ■長崎市（長崎県立美術館、長崎港、諏訪神社、眼鏡橋） ■諫早市（まちなか歴史散策） ■島原鉄道の旅（諫早～愛野） ■富岡市（富岡製糸場、富岡市庁舎） ■高崎市（群馬県立美術館） ■さいたま市（さいたま新都心、氷川神社） ■東京（上野、五反田、浜松町、芝大門） ■大村市（まちなか歴史散策）	■行橋市（思い出の通学路とまちかど遺産） ■福岡市（愛宕神社、愛宕浜、百道浜、福岡タワー、アクロス福岡、猿田彦神社 初庚申、平尾山荘、浄水通り、小鳥神社） ■霧島市（霧島神宮、霧島町蒸留所） ■長崎市（日本二十六聖人殉教地（記念館、聖フィリッポ教会）、諏訪神社、松森神社、田川憲アートルーム Soubi '56） ■須恵町（旅石の赤レンガ塀の街並み） ■太宰府市（太宰府天満宮、スターバックス太宰府天満宮表参道店） ■大分市（大分市アートプラザ、大分銀行赤レンガ館、大分県立美術館、WAZAWAZAビル、カモシカ書店、ガレリア竹町、祝祭の広場） ■別府市（まちなか歴史散策） ■川越市（「第42回全国町並みゼミ川越大会」参加、伝建地区の町並み、スターバックス川越鐘つき通り店）
2月	■熊本市（「熊本城主感謝状贈呈式」参加、熊本城、新町・古町） ■福岡市（豊浜、高取）	■福岡市（豊浜、愛宕神社、愛宕浜、天神） ■大分市（大分銀行赤レンガ館、大分市アートプラザ、大分県立美術館、カモシカ書店、WAZAWAZAビル、府内城） ■佐賀市（三瀬） ■八女市（「第6回まちなみフォーラム福岡 in 黒木」参加） ■鳥栖市（長崎街道田代宿）	■さいたま市（さいたま新都心） ■東京（国立競技場、スターバックス中目黒店、森美術館「未来と芸術展」） ■福岡市（舞鶴公園、豊浜、愛宕、福岡市美術館「大浮世絵展」、愛宕神社） ■熊本市（小島地区、浜田醤油、健軍神社、古町、珈琲回廊） ■筑前町（当所地区、森山地区） ■太宰府市（太宰府天満宮、スターバックス太宰府天満宮表参道店） ■鳥栖市（長崎街道秋葉周辺） ■広川町（下広川小学校周辺） ■朝倉市（秋月 お雛様めぐり） ■佐賀市（三瀬） ■北九州市（門司赤煉瓦ブレイス、門司麦酒煉瓦館、長崎街道豊前大里宿、スターバックス門司港駅店）
3月	■熊本市（水前寺成就園、熊本城）	■大村市（長崎街道松原宿） ■熊本市（川尻、水前寺成就園、新町・古町、熊本城） ■福岡市（田根剛「未来の記憶」展、百道浜、愛宕浜、姪浜、小戸、生の松原） ■久留米市（日吉神社） ■伊万里市（まちなか歴史散策） ■松浦鉄道の旅（伊万里～松浦発電所前） ■北九州市（門司港、小倉旦過市場） ■太宰府市（宝満宮竈門神社）	■長崎市（眼鏡橋及び周辺、長崎駅、田川憲アートギャラリーSoubi '56） ■大分市（大分市アートプラザ、大分銀行赤レンガ館、祝祭の広場） ■佐賀市（柳町 お雛様めぐり） ■うきは市（吉井町 お雛様めぐり） ■鹿児島市（仙巖園、スターバックス鹿児島仙巖園店） ■八女市（八女福島 お雛様めぐり、矢部） ■東彼杵町（大村湾、千綿駅及び周辺のリノベーション建築巡り） ■筑前町（草場川の桜並木と菜の花） ■松浦鉄道の旅（伊万里～調川）
桜巡り	■熊本市（健軍自衛隊通り、水前寺成就園、熊本城） ■朝倉市（秋月 杉の馬場、秋月城址） ■筑前町（草場川の桜並木） ■身近な桜（舞鶴公園、東長寺、愛宕神社、観音寺、姪浜） ■車窓からの桜	■熊本市（健軍自衛隊通り、水前寺成就園、熊本城、一心行の桜） ■朝倉市（秋月 杉の馬場、秋月城址） ■筑前町（草場川の桜並木） ■太宰府市（宝満宮竈門神社） ■大村市（大村公園） ■身近な桜（舞鶴公園、東長寺、櫛田神社、愛宕神社、観音寺、天神中央公園、能古島、姪浜、鳥飼、六本松、赤坂） ■車窓からの桜	■伊万里（松浦鉄道浦ノ崎駅、大川内山、伊万里神社） ■筑前町（草場川の桜並木） ■朝倉市（秋月 杉の馬場、秋月城址） ■久山町（白山神社） ■島原市（島原城） ■大村市（大村公園） ■身近な桜（舞鶴公園、東長寺、愛宕神社、観音寺、平尾山荘、小鳥神社、鳥飼） ■車窓からの桜

※黒字：地域づくりや建築の原点に戻る旅 赤字：熊本の復興の過程を巡る旅 青字：身近なまち旅

主な訪問地			
月	2018年	2019年	2020年
4月	■朝倉市(秋月) ■福岡市(能古島) ■熊本市(熊本城、新町・古町)	■東彼杵町(大村湾、千綿駅) ■大村市(まちなか歴史散策) ■豊後大野市(三重町) ■福岡市(赤坂 JT 跡地のイチョウ) ■南阿蘇村(黒川地区での復興イベント「南阿蘇・黒川ウォーク」参加) ■阿蘇市(阿蘇神社、孤風院) ■柳川市(西鉄中島駅周辺) ■筑後市(羽犬塚) ■大分市(大分市美術館、大分銀行赤レンガ館) ■唐津市(まちなか歴史散策)	■伊万里市(大川内山、まちなか歴史散策) ■有明海フェリーの旅(長洲港～多比良港) ■島原鉄道の旅(島原～諫早) ■大村市(まちなか歴史散策) ■諫早市(まちなか歴史散策) ■福岡市(愛宕浜、百道浜、博多湾、薬院、今泉) ■益城町(熊本地震からの復興) ■筑後市(筑後広域公園、矢部川河川敷、中ノ島公園の大楠林) ■佐賀市(三瀬) ■久山町(白山神社)
5月	■福岡市(能古島) ■南阿蘇村(免の石、阿蘇大橋) ■鹿児島市(城山、天文館) ■唐津市(まちなか歴史散策) ■長崎市(東山手地区) ■八代市(松浜軒、八代城跡、未来の森ミュージアム) ■B&S みやざきの旅(新八代～都城) ■対馬市(萬松院及びその周辺)	ド イ ツ 世 界 遺 産 の 旅 ■行橋市(まちなか歴史散策) ■福岡市(愛宕、愛宕浜、薬院) ■唐津市(まちなか歴史散策) ■北九州市(若松まちなか歴史散策) ■リュースハイム(つぐみ横丁、市街地の街並み) ■ライン川クルーズ(リュースハイム～ザンクトゴア) ■ケルン(ケルン大聖堂、市街地の街並み) ■ハイデルベルク(カール・テオドル橋、ハイデルベルク城、学生牢跡、聖霊教会、市街地の街並み) ■ビュルツブルク(市街地の街並み、レジデント、マリエンベルク要塞、旧メイン橋) ■ローテンブルク(市街地の街並み、お洒落なお店) ■ホーエンシュバンガウ(ノイシュバンシュタイン城、ホーエンシュバンガウ城、周辺の街並み景観) ■シュタインガーデン(ヴィース教会、農村景観) ■ガルミッシュパルテンキルヘン(市街地の街並み) ■ツークシュピッツェ(市街地の街並み) ■ミュンヘン(市街地の街並み) ■ロマンチック街道	■福岡市(愛宕浜、百道浜、博多湾、姪浜、愛宕神社、生の松原、小戸、能古島、薬院、奈良屋、御供所、平尾、浄水通、港、高宮南緑地) ■糸島市(桜井神社) ■大木町(天満神社、木本宮) ■佐賀市(佐賀駅前、三瀬) ■筑前町(草場川の桜並木) ■朝倉市(秋月 杉の馬場、秋月城址) ■南阿蘇鉄道トロッコ列車の旅(高森～中松) ■阿蘇市(草千里、米塚) ■熊本市(新町・古町、上之裏通り、水前寺成就園)
6月	■太宰府市(宝満宮竈門神社、太宰府天満宮) ■柳川市(掘割、沖端) ■糸島市(二丈) ■北九州市(戸畑、若松) ■長崎市(南山手地区、大浦天主堂、グラバー園) ■島原鉄道の旅(諫早～愛野) ■宗像市(唐津街道赤間宿) ■熊本市(「建築士の集い」参加、熊本城、新町・古町、上及裏通り) ■筑紫野市(長崎街道山家宿) ■鹿児島市(石橋記念公園、天文館、甲突川)	■福岡市(薬院) ■北九州市(小倉島町食道街) ■長崎市(紫陽花まつりとシーボルトゆかりの地) ■佐賀市(三瀬、佐嘉神社、柳町) ■有明海フェリーの旅(熊本港～島原港) ■島原市(鯉の泳ぐまち、寺町、武家屋敷、森岳商店街) ■島原鉄道の旅(島原港～諫早) ■行橋市(まちなか歴史散策) ■中津市(まちなか歴史散策) ■さいたま市(鉄道博物館) ■東京(国立西洋美術館開館 60 周年記念「松方コレクション展」&国立西洋美術館誕生に隠された奇跡の物語「美しき愚かものたちのタブロー」) ■唐津市(鏡山、虹の松原) ■久留米市(久留米市美術館)	■熊本市(小島地区、浜田醤油、新町・古町、熊本城) ■福岡市(西日本シティ銀行本店、唐津街道箱崎宿、宮崎宮、薬院) ■鳥栖市(長崎街道田代宿、鳥栖八坂神社周辺) ■東峰村(宝珠山) ■朝倉市(三連水車、杷木) ■長崎市(眼鏡橋、長崎駅)
7月	■佐賀市(三瀬) ■北九州市(小倉駅北) ■福岡市(薬院、今泉、鳥飼、六本松、愛宕、愛宕浜、室見、博多住吉神社)	■小竹町(長崎街道小竹) ■直方市(まちなか歴史散策) ■福岡市(天神、博多祇園山笠、舞鶴公園、福岡市美術館、唐津街道箱崎宿、博多住吉神社) ※2019 年は約 20 年ぶりに追い山ならしを栈敷席で見学した。 ■小郡市(かえる寺) ■唐津市(虹の松原、浜崎) ■熊本市(熊本城、新町・古町、熊本県立美術館、橙書店)	■由布市(COMICO ART MUSEUM YUFUIN) ■熊本市(熊本城、上通り OMOKEN PARK、上之裏通り) ■福岡市(西日本シティ銀行本店) ■唐津市(旧唐津銀行、中町) ■大分市(大分県立美術館、大分市アートプラザ、大分銀行赤レンガ館) ■佐賀市(三瀬) ■鹿児島市(天文館)

※黒字:地域づくりや建築の原点に戻る旅 赤字:熊本の復興の過程を巡る旅 青字:身近なまち旅

主な訪問地			
月	2018年	2019年	2020年
8月	■長崎市(平和公園、浦上天主堂、二十六聖人殉教地(記念館、聖フィリッポ教会)、諏訪神社) ■阿蘇(阿蘇神社、阿蘇大橋崩落現場、一心行の桜、水源巡り、草千里) ■朝倉市(三連水車) ■大刀洗町(今村天主堂) ■宇美町(極楽寺入口) ■松浦鉄道の旅(有田～今福) ■宇佐市(宇佐神宮、平和資料館) ■福岡市(櫛田神社、猿田彦神社) ■島原鉄道の旅(諫早～愛野)	■福岡市(大濠公園、福岡市美術館、愛宕浜、生の松原) ■熊本市(川尻) ■長崎市(平和公園、浦上天主堂、長崎県立美術館、崇福寺、新地中華街、唐人屋敷跡、孔子廟、オランダ坂、眼鏡橋及び周辺) ■佐賀市(恵比須様巡り) ■鹿児島市(名山、天文館)	■B&S みやざきの旅(新八代～都城) ■八代市(東陽町種山 石工の郷) ■鳥栖市(長崎街道秋葉周辺) ■行橋市(行橋赤レンガ館) ■高森町(上色見熊野座神社、高森殿の杉) ■南阿蘇村(南阿蘇鉄道沿線) ■阿蘇市(阿蘇神社) ■豊肥本線の旅(阿蘇～立野) ■南小国町(押土石の丘) ■霧島市(霧島神宮) ■熊本市(上熊本駅、上通り OMOKEN PARK) ■佐賀市(コムボックス佐賀駅前) ■福岡市(西日本シティ銀行本店、唐津街道箱崎宿)
9月	■別府市(上人ヶ浜温泉付近の住宅地、竹瓦温泉) ■長崎市(聖福寺、福濟寺、本蓮寺、二十六聖人殉教地(記念館、聖フィリッポ教会)、長崎県立美術館) ■福岡市(高取、愛宕、姪浜) ■うきは市(つづら棚田) ■朝倉市(三連水車) ■北九州市(北九州市立美術館) ■八女市(町家散策ツアー、燈籠人形公演) ■大分市(大分県立美術館、ギャラリー竹町) ■松浦鉄道の旅(伊万里～今福) ■松浦市(今福街道)	■福岡市(愛宕浜、大濠公園、福岡市美術館、御供所) ■佐賀市(三瀬) ■中津市(まちなか歴史散策) ■大分市(大分市アートプラザ、大分銀行赤レンガ館) ■朝倉市(三連水車) ■平成筑豊電鉄の旅(行橋～直方) ■松浦鉄道の旅(伊万里～調川) ■伊万里市(まちなか歴史散策) ■筑前町(長崎街道山家宿)	■別府市(竹瓦温泉、べっぴん駅市場) ■由布市(まちなか歴史散策、COMICO ART MUSEUM YUFUIN、アルテジオ) ■大分市(カモシカ書店) ■福岡市(大濠公園、福岡市美術館) ■九重町(長者原) ■竹田市(長湯温泉) ■唐津市(まちなか歴史散策) ■久留米市(筑後川河畔歴史散策)
10月	■柳川市(沖端) ■福岡市(古門戸町、御供所、能古島) ■筑後市(九州芸文館、筑後広域公園) ■久留米市(ほとめき通り商店街、筑後川) ■鹿島市(祐徳稲荷神社、肥前浜宿) ■佐賀市(三瀬) ■長崎市(崇福寺、興福寺、寺町通り、眼鏡橋及び周辺、中島川の石橋、唐人屋敷跡、新地中華街、長崎龍馬の道) ■豊肥本線の旅(大分～三重町) ■豊後大野市(三重町市場) ■唐津市(虹の松原、東唐津、唐津城) ■函館市(トラピスチヌ修道院、立待岬、元町、五稜郭、湯の川温泉、函館山からの夜景、朝市) ■函館～札幌(大沼国定公園、洞爺湖、有珠山、洞爺湖有珠山ジオパーク) ■札幌市(定山溪) ■小樽市(運河、歴史的建造物)	■佐世保市(カトリック三浦町教会、佐世保港、佐世保重工業、展海峰、戸尾市場街、とんねる横丁、さるくシティ 403 アーケード、させぼ五番街) ■久留米市(久留米市美術館) ■唐津市(呼子町) ■大分市(大分市美術館「磯崎新の謎」展) ■熊本市(熊本城、新町・古町、桜町バスターミナル) ■佐賀市(三瀬) ■久留米市(荒木町) ■福岡市(博多湾、今泉、能古島、海の中道海浜公園、愛宕浜) ■筑前町(草場川の桜並木) ■唐津市(鏡山) ■阿蘇市(米塚、草千里) ■南阿蘇村(免の石) ■西原村(俵山周辺)	■福岡市(原田、東長寺、愛宕浜、原、千代、西日本シティ銀行本店) ■霧島市(嘉例川駅、大隅横河駅、霧島神宮、霧島町蒸留所) ■杵築市(北台武家屋敷、南台武家屋敷) ■別府市(べっぴん駅市場、別府駅西口の別府石の石垣の街並み) ■大刀洗町(今村天主堂) ■筑前町(大刀洗平和記念館) ■熊本市(小島地区、浜田醤油、水前寺成就園)

※黒字:地域づくりや建築の原点に戻る旅 赤字:熊本の復興の過程を巡る旅 青字:身近なまち旅

主な訪問地			
月	2018年	2019年	2020年
11月	■福岡市(愛宕浜、愛宕、百道浜、六本松、薬院、能古島、高取、舞鶴公園) ■松本市(中町通り、縄手通り、松本城、旧開智学校) ■長野市松代(松代城跡、武家屋敷、泉水路) ■小布施町(町並み、路地、古刹) ■久留米市(久留米市美術館「ウィリアム・モリスと英国の壁紙展」) ■熊本市(熊本城、新町・古町、水前寺成就園、熊本県立美術館) ■鹿島市(祐徳稲荷神社) ■朝倉市(秋月) ■北九州市(木屋瀬)	■福岡市(箱崎「第7回まちなみフォーラム福岡 in 唐津街道箱崎宿」参加、能古島、大濠公園、舞鶴公園、博多駅クリスマスマーケット) ■阿蘇市(米塚、草千里) ■南阿蘇村(黒川地区) ■南阿蘇鉄道トロッコ列車の旅(高森～中松) ■西原村(俵山周辺) ■熊本市(熊本城、新町・古町、熊本駅) ■唐津市(虹の松原) ■大牟田市(大牟田市動物園)※映画「いのちスケッチ」と関連して ■筑紫野市(二日市まちなか歴史散策) ■長崎市(水辺の森公園) ■大村市(森林公園から見た大村湾の夕景、まちなか歴史散策) ■佐賀市(三瀬) ■B&S みやざきの旅(新八代～宮崎) ■鹿児島市(南洲神社、南洲墓地、大龍寺跡) ■朝倉市(秋月、松末、杷木) ■東峰村(宝珠山)	■福岡市(愛宕浜、能古島) ■別府市(八幡竈門神社) ■北九州市(小倉旦過市場、鳥町食道街) ■佐賀市(三瀬) ■糸島市(櫻井神社、桜井二見ヶ浦) ■竹田市(長湯温泉) ■豊後大野市(原尻の滝) ■八女市(八女福島) ■唐津市(鏡山) ■熊本市(熊本城、新町・古町、上熊本駅)
紅葉巡り	■松本市(松本城) ■長野市松代(松代城跡) ■小布施町(古刹) ■広川町(太原のイチョウ並木) ■久留米市(久留米市美術館、柳坂曾根のハゼ並木) ■熊本市(熊本城、水前寺成就園) ■鹿島市(祐徳稲荷神社、事比羅神社) ■朝倉市(秋月城址) ■筑前町(草場川) ■北九州市(木屋瀬) ■身近な紅葉(愛宕浜、愛宕、百道浜、薬院、能古島、紅葉八幡宮、舞鶴公園) ■車窓からの紅葉	■太宰府市(宝満宮竈門神社) ■広川町(太原のイチョウ並木) ■朝倉市(秋月城址) ■豊後高田市(富貴寺) ■身近な紅葉(舞鶴公園、百道浜、愛宕、愛宕浜、曲渕) ■車窓からの紅葉	■糸島市(雷山千如寺大悲王院、雷神社) ■唐津市(環境芸術の森) ■太宰府市(宝満宮竈門神社) ■身近な紅葉(百道浜、愛宕、愛宕浜、姪浜) ■車窓からの紅葉
12月	■佐賀市(三瀬) ■諫早市(まちなか歴史散策) ■鹿島市(肥前浜宿) ■熊本市(熊本城) ■福岡市(百道浜、愛宕、博多駅クリスマスマーケット) ■柳川市(西鉄中島駅周辺) ■太宰府市(太宰府天満宮) ■大分市(大分銀行赤レンガ館、大分市アートプラザ、大分市アートプラザ開館 20 周年記念「磯崎新講演会&展覧会」) ※2018 年最後のまち旅は学生時代に一番見て回った磯崎新氏の作品の中でも印象に残っている旧大分県立大分図書館(現大分市アートプラザ)。大分に行く楽しみが増えた締め括りのまち旅となった。	■豊後高田市(富貴寺、田染荘) ■佐世保市(佐世保港、喧嘩独楽) ■長崎市(田川憲アートルーム Soubi '56、大浦天主堂、グラバー園、南山手美術館「田川憲 版画の世界」展、松森神社) ■福岡市(博多駅クリスマスマーケット、チームラボ福岡城跡 光の祭) ■佐賀市(三瀬、柳町) ■太宰府市(大宰府政庁跡、坂本八幡宮、太宰府天満宮) ■松浦鉄道の旅(伊万里～佐世保) ■八女市(八女福島) ■霧島市(霧島神宮)	■佐世保市(カトリック三浦町教会、とんねる横丁、戸尾商店街、佐世保重工業、赤レンガ倉庫群、第4ドック、展海峰) ■長崎市(日本二十六聖人殉教地(記念館、聖フィリッポ教会)、福済寺、聖福寺、諏訪神社、松森神社、田川憲アートルーム Soubi '56) ■太良町(有明海ノリ養殖の風景) ■福岡市(博多駅クリスマスマーケット) ■筑紫野市(二日市温泉街) ■霧島市(鹿児島神宮、嘉例川駅、大隅横川駅) ■鹿児島市(桜島、石橋記念公園) ■宇土市(網田駅、有明海ノリ養殖の風景)

※黒字:地域づくりや建築の原点に戻る旅 赤字:熊本の復興の過程を巡る旅 青字:身近なまち旅